

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200683		
法人名	有限会社 みんなの家		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	宮城県登米市中田町宝江新井田字並柳前57番地		
自己評価作成日	平成30年8月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能介護施設として同じ敷地内に『通って時々泊まって、そして住むことも出来る』施設がある。また、複合型施設として保育所や障害者GH等もあり、その事から地域の方々から地域を超えて多くの方々を利用して下さる為、グループホームの利用者様と交流する機会が多く賑やかである。何より、施設内行事の多い事はもちろん外出行事も多数あり、行く機会のなかった場所や行きかかった場所にも行けるように希望を聞いて実践している。そして今まで家庭で送って来たような、ゆったりとした自由でゆとりのある生活も継続し、入居利用者様同士の交流、他事業所の利用者様との馴染みの関係、職員との家族のような生活を送れるように一人一人に合った生活スタイルを考え支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道登米インター近くに位置し、「通い」「泊まり」「住む」の三つのサービスが同敷地内で行なわれている。同法人が運営するサービス付き高齢者向け住宅、障害者勤労事務所、保育所、カフェ等も敷地内にあり、利用者も職員も自由に行き来し賑わいを感じられる。見学者も多く、木のぬくもりが感じられる古民家風な作りが、訪れる人達に安らぎと感動を与える施設になっている。地元との地域交流も盛んで、今年で12回目を迎える施設主催の夏祭り等は、子供から大人まで800人を超える参加者があり、地域の祭りに発展している。ボランティアの来訪も多く、日々の地域交流が、有事の対応にも生かされ、災害時の協定を結ぶ等、地域との強固な連携体制も構築されている。管理者と職員は、常に利用者に寄り添い、思いを実現できる支援を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHみんなの家 ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本来ある法人共通の基本理念を基に、グループホーム独自の基本理念を、所属職員で共有しケアに当たっている。	今年度の目標をスタッフ全員で話し合い「いつでも寄り添い話を聴きます。」とし、グループホーム独自の理念としてスタッフルームに掲示し、日々のケアに生かしている。利用者のじっくり話をじっくり聞く事で、思いが把握しやすくなった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設主催の行事には地域の皆様をお招きする事はもちろん、利用者様のみならず職員も一緒に逆に招待されたり協力し合ったりとお互いに足を運び合っている。	ホーム主催の夏祭りや芋煮会に、多くの地域住民の参加があり、地域交流が進んでいる。地元の行事「十三講まつり」や学校、幼稚園の運動会・学芸会等にも応援で参加するなど日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回恒例となっている認知症『オレンジカフェ』を実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し各関係機関や地域の代表、ご家族様にもご参加いただき、情報を頂いたり施設への忌憚のないご意見を頂いている。	会議は、市職員、地域包括職員、区長、第三者委員、顧問、家族代表で構成され2ヶ月に1回開催している。主に、利用者状況、ヒヤリハット、職員研修等について報告され、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとしても定期的に会議に参加頂き、ご指導や情報を頂いている。	市職員が運営推進会議のメンバーになっており、意見やアドバイスをもらっている。研修会の案内等の情報提供もある。必要に応じ入居者に対する支援の連携体制や有事の際には、ホームに駆けつけてくれる体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当初より掲げている『身体拘束排除宣言』をもとにケアを実践し研修委員会で行われる研修でも勉強している。	「身体拘束排除宣言」を職員が常に意識する様に事務所に掲示し、マニュアルにそって年1回研修を実施している。玄関は自由に出入りが出来、同敷地内のカフェにコーヒーを飲みに行く利用者もいる。施錠は夜9:00から翌朝6:00までである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会に参加し、虐待の意味を理解するとともに、ケアに当たる際は職員同士声を掛け合いながら当たるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画においても学ぶ機会が有り、また以前には実際利用されていた方もいたため、勉強はしていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明、疑問はもちろん全て細かく説明を行い、入居後や入居前・見学時にも相談や説明は十分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族にもご参加頂き、要望や意見を他の委員の皆さんにも聞いてもらっている。	職員は利用者の担当を決めて、面会時に家族の要望を聞いている。運営推進会議にも家族代表が参加している。家族の要望から趣味を生かし植木鉢を部屋に飾り自分で手入れをしたり、電動ノコギリを使う利用者の見守りをしている。ホームの運営状況は、「みんなの家通信」を発行し情報発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議に参加し意見を聞いたり、随時声を掛けたり掛けられたら時間を作って聞くようにしている。	全体会議、月1回の事業所会議とスタッフ会議、年1回の個人面談等、職員が意見を出せる機会を設けており、職員アンケートも行っている。ケアについて、職員同士で話し合い解決することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場には随時出向き意見を聞いたり、気軽の話せる状況も作っている。また資格取得に向けても支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加の推奨を実践し、内部研修も計画的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に所属し研修等にも積極的に参加するように勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談からじっくりと聞き取りを行い、安心して入居できるようにし、入居後もより一層傾聴の姿勢で関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様に不安や要望はじっくりと聞き取り、特に苦労話には傾聴して、安心してお話できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当していたケアマネージャーにも情報をもったり、よく聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と職員は一方的な関係にならないように助家、助けられながらお互い協力し合い生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時や時には行事にも協力を頂きながら、本人様と関わりを絶やさず、また面会時には職員も積極的に家族様に関わりを持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へは普段の外出で行ったり、誕生日会にお招きしたりしていたが、最近では居室活動を通して関係の継続に力を入れている。	利用者の思いを叶える様に支援しており、近所のスーパーへの買い物や誕生日には外食に出かけている。同敷地内にある他事業所へ家族や知人を訪ねたり、関係が継続出来る支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や特徴を把握した上で、関係がスムーズに図れるように工夫し、時に懸け橋となり関係を築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居利用者様は登米市内出身者が多く、ご家族ともお目にかかる機会もある。気軽に声をかけたり、行事にも参加できるようにご案内したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を通し良く本人様の気持ちを聞き取り、困難な場合はご家族から情報を得たり、以前の生活状況から検討している。	家族から情報を収集し、利用者が好きな裁縫や花の手入れなど趣味を生かす支援を心がけている。食べ物の嗜好が変化した利用者もおり、日々の生活を通して思いを把握し、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間パターンシートを使用し生活状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者と話し合いを持ち、職員間でもスタッフ会議で話し合いながら検討したり、変更したりしている。	利用者や家族の思いを把握し、スタッフ会議で話し合いを行い介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回行っている。基本、年1回介護計画を見直しし、入院等状態が変わった利用者には随時、対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間パターンシートや個別のケース記録を使用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や希望を考慮しながら、本人様に合った個別的な、また急な事にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや様々な地域資源を把握し、必要な方にはいつでも利用出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人様やご家族により決定されており、必要時は支援できる体制に整えている。	希望するかかりつけ医を受診している。受診の際は、家族が付き添い、必要に応じてホームの車で送迎している。利用者の健康状態のデータを家族に渡し、診断結果は報告を受けケース記録に記入している。訪問診療を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護師との契約があり、また施設内看護師には必要に応じ相談したり共に病状の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の連携室と連携し情報交換をしたり、入院時には週2～3度面会し担当看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点ですでに意思確認を行い、実際その段階に入った際は再度確認し意思に合った対応をしている。	「グループホームにおける重度化対応に関する指針」を作成し、「急変時対応希望書」を家族と取り交わしている。看取りの実績もあり、マニュアルを作成し年1回研修を行っている。看護師が同敷地内にある他事業所に常勤しており、アドバイスや助言などが受けられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による救急救命・AED講習会が毎年行われ全職員対象に行われている。また施設内外研修会にも参加をしたり参加を勧めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内避難訓練に参加したり、地域の訓練に参加。それにより災害の種類によって避難場所や方法を訓練で身につけている。	マニュアルを作成し、夜間想定訓練を含め毎月想定を変えて避難訓練をしている。年2回消防署立ち合いのもと、防災訓練も実施している。防災設備は、業者による点検を年2回実施している。非常食などの備蓄は5日分である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目立たない羞恥心に特に注意し、配慮したケアをするようにしている。	マニュアルを作成し研修を実施している。生活歴を家族から聞き、ふれて欲しくないことなど、一人ひとりの状況を尊重し支援している。個人情報に配慮し、居室の入口に名札がない。本人の希望にそって呼んだり、名前に「さん」を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中からも希望や要望を聞き取り、自己決定できるような話の持っていくことができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な希望等にも出来る限り応えられるようにし、どうしても難しい場合は、代替え案を出すなど希望に近づけるようにしている。急遽の外出にも『行く』『行かない』の希望は聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や理髪時本人様の意見を聞き取り対応している。行事や外出時のおしゃれにも気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を把握し、出来るかぎり力を貸しながら一緒に行っている。	新年の餅つき、恵方巻等、季節感を取り入れて利用者が楽しんで食事が出来る様、支援している。行事によっては屋外で食事をすることもある。献立は管理栄養士が作成し、食事は利用者と職員と一緒に準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間パターンシートの活用、個々の状態に応じ主治医や看護師、管理栄養士と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアの実践や、出来る限り自分の力で最後までできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、個々に合った排泄方法を支援している。	排泄パターンを把握し、それぞれの利用者に応じた支援を行い、リハビリパンツから布パンツに変わった利用者もいる。便秘がちな利用者には食物繊維の多い食品やヨーグルト等を取り入れ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は管理栄養士に相談しながら工夫をして、運動は勿論腹圧をかけた促しを工夫したり、医師にも相談をし対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	日中・夜間共に希望される方はいつでも対応している。時に急に早朝希望されても対応してきている。	入浴は利用者の希望にそって支援している。2日から3日ごとに入る利用者が多いが、毎晩入浴する利用者もいる。リフト浴もあり、誰でも安心して入浴できる様に支援している。季節に合わせ、ゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った環境の整備(空調・照明等)に気を配り、ぐっすり眠れるようまた寝たり起きたりする時間も希望によりずらしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はほぼ職員サイドで管理がされており、薬の情報は薬情で把握し、時に薬剤師に聞き取りを行うこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において自分の役割を持った生活を支援し、外出や趣味支援にも力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出行事の他に急遽の外出、個別の外出等外出には力を入れている。時に他事業所と協力しながら行うこともある。	年間行事計画を作成し、初詣、花見、紅葉狩りなど、ドライブを兼ねて季節ごとに外出支援をしている。利用者の希望に合わせて、家族の見舞いや買い物、つるし飾りの見学など個別の外出支援にも対応している。誕生日に外食する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭を所持し買い物できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は切手を購入し投函をお手伝いしたり、電話に関してはかけたい時は無償で提供し、かかってきたものには取次している。携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした空間作りを行い、自然光を取り入れた開放感のある、そしてくつろげる環境作り心掛けている。	天井が高く、広々とした共用空間は、木のぬくもりが感じられ、利用者が落ち着ける空間になっている。玄関にはホームの理念が掲げられ、利用者の作品を飾っている。廊下には長椅子が置かれ、利用者同士がゆっくりとくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にちょっとしたスペースを何方か用意し、気の合った利用者様同士や、職員への相談が個別にできる場所を確保している。天気のいい日にはウッドデッキや中庭にもスペースが準備されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本居室内身の周りのものは、自宅からのご自分の使い慣れた懐かしい物の持ち込みとなっている。また、入居後から趣味活動などで作られた作品なども飾られている。	利用者の個性を生かし、趣味の作品を飾るなど利用者が居心地よく暮らせるように支援している。仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。担当の職員が、温・湿度管理、掃除、衣類の交換などを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ここに合わせ分かりやすい目印等を付け、暮らしやすくなるように工夫している。		